

Headline

「岩手県北地域企業視察会」を実施しました！

振興センターは7月2日(火)、高度技術利用研究会・アイピー倶楽部との共催で岩手県北地域企業視察会を実施し、産学官金関係者18名が参加しました。

一行はまず、久慈バイオマスエネルギー(株)へ。製材会社の社長も兼任する日當和孝代表取締役が地元の木質廃材で何かできないかと2009年から調査を始め2014年に設立。樹皮や木の根、廃菌床など未利用木質バイオマスを燃やし、隣接する大規模菌床しいたけ事業者に蒸気・温水・冷水を、また排熱でチップを乾燥させ市内温水プールなどに供給する事業を行っています。日當社長から同社の成り立ち、ビジョン、今後の課題などの説明を受けたあと、熱供給プラント、菌床しいたけハウスの見学へ。社長自ら案内して下さり、参加者からは様々な質問が飛びかいました。

久慈市内での昼食をはさみ、婦人ハイブランドのジャケット・コートを中心とした日本の代表的アパレル工場である岩手モリヤ(株)へ。初めに森奥信孝代表取締役社長より、会社概要とともに日本の縫製工場が抱える問題、それに対し同社がどう対策を講じ世界のハイブランドから信頼を得たのか、またデジタル化やSDGsへの取り組みなどについて「NHKおはよう日本」出演時の動画等を交え説明後、縫製工場へ。3DCADによる工業用パターン作成、全自動延反機、全自動裁断機などが稼働する様子、シワをつくらず工程搬送するハンガーシステム(イートン社製)など全行程を見学。女性従業員が生き生きと作業する姿が印象的でした。ちょうどインターンシップで仙台の専門学校から数名の生徒が訪れており、ベテラン社員に指導を受けながら縫製している様子も見られました。

続いて洋野町に移動し、医療用ステープラーの組立、針付き縫合糸の製造等を行うケイセイ医科工業(株)へ。2017年10月に同町角浜小旧校舎を活用した東北事業所を開設し、2019年5月に新工場が完成。滅菌装置や包装装置を備え、原材料の受け入れから包装工程まで一貫製造を行う無菌化工場ですが、この日はタイミングが合わず残念ながら見学はNG。旧校舎工場の見学と医療用ステープラー打ち出しの体験を行いました。

普段なかなか見ることのできない業種の異なる3社を視察し、参加者の満足度は100%。「廃材処分の課題解決から始まった事業で、金儲け目線ではない主旨に人々が集まってきた経緯が素晴らしかった」「技術という芯のぶれない部分をしっかり続けることの重要性を改めて実感した」「仕様書にない技術で他社と差別化しているとのこと、自分たちの努力で勝負しているのがとても印象的だった」などの感想をいただきました。各社から新たな知見を得られ、大変有意義な視察会となったようです。



久慈バイオマスエネルギーのプラント内を見学



自然に腕に沿う形状にする岩手モリヤ独自の「くせ取り工程」



岩手モリヤのハンガーシステムについて説明を受ける参加者

八戸・五戸の企業4社がオンラインで自社をアピール 「学生・生徒リモート企業見学会」を開催

振興センターは7月29日(月)、高校生らに地元企業の良さ、魅力を感じてもらい、人材の地元定着を図ることを目的に「学生・生徒リモート企業見学会」を開催し、八戸工業高等学校、名久井農業高等学校の生徒・教員約60名が参加しました。

コロナ禍を機にリモート方式に切り替え5年目となる今回は八戸市・五戸町の4社が参加。各社とも30分の持ち時間をフルに生かし、動画や工場からの生配信、今年入社の卒業生のインタビューなどそれぞれに工夫をこらした内容でアピールしました。

参加した高校生からは「進路決定にとってもやる気をもらうことができた」「機械科にいただけでは知り得なかった企業を知ることができ満足」「全体的に動画や資料がわかりやすく今後の参考になった」など前向きな感想をたくさんいただきました。



インタビューに答えるみちのく興業の2024年入社の若手社員
(画面キャプチャより)



八戸工業高等学校参加者の様子

生徒たちの見学先企業別の感想 (一部抜粋)

大蔵工業株式会社 [五戸町]

事業内容: 難削材の精密機械加工、放射線防護用鉛ライニング及び溶接等

- どのような製品を作っているのか、どのような仕事をしているのかがよく分かり、興味が出てきました。
- 実際の作業工程を動画で見ることができ、詳しく知ることができて良かった。
- 見たことがないロボットやハイテクロボットがたくさんあったが、しっかり人の手が加わっているところもあり感動した。
- 日本国内だけでなく海外にも向けて製造していることに感激した。

みちのく興業株式会社 [八戸市]

事業内容: 内装工事、建築一式工事

- とても楽しそうで社内の雰囲気が良かった。専攻が違って何もわからないけど就職してみたいと思った。
- とても明るい会社で、面白い社員もいて自由な会社だなと思いました。
- 建設系の仕事で世の中を支えていることに感動した。
- 建設業は男性のイメージがあったけれど、女性でも仕事をしていけることを知ることができてよかった。
- 社員の仲、雰囲気がとても良さそうだった。しっかりするところはしっかりするというように、メリハリがあつていいと思った。

株式会社サンライズ・エー・イー [八戸市]

事業内容: システム・ソフトウェア受託開発、自社開発

- 私服でのびのび仕事していけそうだし、福利厚生も充実していて楽しそうだなと思った。
- 資料がとてもわかりやすく、気になることが私たちに伝わりやすかった。
- 会社の雰囲気がとてもよく、人間関係も良さそう。
- 会社の雰囲気が良く、休憩時間に体を動かせる場もあってとてもいいなと思いました。
- 仕事の内容が面白いと思った。また20代の人達が多く働きやすいと思った。

プライフーズ株式会社 [八戸市]

事業内容: プロイラー事業、ハイポー事業、食鳥処理機械事業

- とても大きな企業で実際に見学してみたいと思った。一番気になっていた企業なので見られて良かった。
- 普段見られないような工場での工程もリモートで見られてとても良い経験ができました。
- 8,000羽の鶏を1日でさばくのにびっくりしました。流通の仕組みを今日初めて知ることができて良かったです。
- 食品を大切に扱い、食べてくれるお客様に食の安全を届けることを心がけていると感じた。
- 1社でたくさんの事業をしており、地域活動にも力を入れていてバランスが取れた企業だなと思った。



需要が高まり各種ロボット関連事業を展開！

青森県委託事業「ロボット専門人財育成支援業務」

(株)八戸インテリジェントプラザでは、三八地域のものづくり企業の生産性向上に向け、ロボット操作及びシステム構築を可能とする人財を育成するための事業を行っています。

■ 人気殺到「協働ロボット操作体験会」



マンツーマンで双腕型協働ロボットの操作について丁寧指導する鈴木主任研究員(左)

6月18日(火)～19日(水)、八戸工業研究所「ロボット試験室」においてロボット操作およびシステム構築の人財育成を目的とした協働ロボット操作体験会を開催し、7社9名が参加しました。講師は共催の八戸工業研究所職員が担当しマンツーマンできめ細やかに指導。安全柵なしの環境において、人の近くで作業できる協働ロボットでは、アーム型協働ロボット「UR10e」(ユニバーサルロボット)と双腕型協働ロボット「NEXTAGE」(カワダロボティクス株)について、ピック&プレース(ロボットのハンドで対象物をつかみ、目的の場所に移動・設置する工程)をロボットに教えるプログラミング方法と安全対策などを紹介。いずれもロボット本体に組み込まれているパソコンあるいはタッチパネルにより視覚的で分かりやすく、ロボットの利用経験のないオペレーターでも迅速にプログラミングできます。また「UR10e」は実際にロボットのアームを手で動かしロボットの動きを覚えさせる「ダイレクトティーチング」も可能。無人搬送機「LD90」は走行ルートを自律的に走行でき、事前走行によって作製した地図とレーザセンサーをもとに自己位置を認識できるもので、協働ロボットと連動させた操作法も紹介されました。

参加者は今回実際に操作体験できたことにより、実際の現場での業務に手応えを感じておりました。

■ 産業用ロボット人材育成を推進「産業用ロボット安全特別教育」

7月1日(月)～5日(金)、三八地域の企業を対象にロボット操作およびシステム構築を可能とする人財を育成するため、(地独)青森県産業技術センター八戸工業研究所との共催で「産業用ロボット安全特別教育」を開催しました。

講師は「ロボットテクニカルセンター東海」を設立・運営している(株)田口鉄工所の小島健ロボット事業部技術顧問。参加者は製造現場にロボットを導入計画している企業等11社17名で、産業用ロボットおよび同ロボットの教示・検査等に関する知識、並びに関係法令について学び、その後、ロボット試験室常設の産業用ロボットを使用し、操作を通じて学んだ知識を習得していました。

講習を受けた参加者からは、「ロボットを実際に動かしながら実習を進めたのがとても良かった」「地域でロボット安全教育を実施してもらい助かった」などといった声が聞かれ、ロボットによる生産性向上に役立つ内容であったようです。



真剣に実習に打ちこむ受講者

令和6年度「高度技術利用研究会」総会

【特別講演】患者に優しいがん診断・治療装置の実現へ

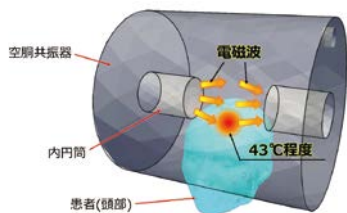
高度技術利用研究会(会長：関秀廣八戸工業大学名誉教授)は7月10日(水)、八戸グランドホテルにて総会を開催し、令和5年度事業報告・収支決算、および令和6年度事業計画案・収支予算案が承認されました。

引き続き、八戸工業高等専門学校産業システム工学科の井関祐也准教授により、脱・短命県を目指し、患者に優しいがん診断・治療装置の開発について講演いただきました。

井関准教授は、42～43℃で一定期間加熱するとがん細胞が死滅するという臨床事実に基づいたがん治療法「ハイパーサーミア(温熱療法)」をベースに、がん治療装置や非侵襲温度計測を研究しています。ハイパーサーミアは患者への負担が少なく、抗がん剤・放射線療法との併用で高い治療効果を示している一方、深部がんに対し非侵襲に加熱可能な装置が開発されておらず、生体内の温度計測が難しいという課題があります。

井関准教授はこれらを解決すべく、産学ならびに医学・機械・電気など分野を跨いだ研究開発を推進。今後は安全かつ効果的なハイパーサーミアの実現のためには温度計測は不可欠であるため、特に温度計測機能を有する空洞共振器加熱装置の確立を目指し、今後のがん治療の重要な役割を担いたいと訴えました。

参加者からは、患者に優しく効果的な治療が現実的になってきている実感とともに、八戸からの実現に向けた期待の声が多数挙っておりました。



確立を目指す空洞共振器加熱装置



2017年、新規温熱療装置の開発で臨床デビューの頃の井関准教授(右)。左は新藤康弘東洋大学 理工学部准教授

井関准教授が関わる主な研究

■ 空洞共振器加熱装置

「空洞共振器」の内部に体を挿入し、深部がんのみを電磁波によって加熱する新しい温熱治療装置の開発。

■ 新針状電極加熱装置

国内外において広く用いられている加熱装置の一つ「針状電極加熱装置」について、直径1mm程度の電極を患部に刺し、体外電極との間に高周波電流を流して癌を加熱することで針状電極の刺さった箇所が確実に加熱できる一方、加熱エリアが狭いという欠点があり、加熱エリアの拡大とともに、より安全な治療を目指した新装置を開発。

■ 超音波診断装置の応用

体内における温度分布の計測は効果的なハイパーサーミア治療に不可欠。がんの位置や大きさを把握し生体内温度分布を計測する「ガイド機能」、生体深部のがんの位置や大きさに応じた的確な加熱が行える「加熱機能」、さらに超音波画像と温度上昇の関係をAIに学習(ディープラーニング)させることによって、加熱前後の超音波画像に生じるわずかな伸縮するという課題を解決し、超音波エコー画像から治療中の体内温度分布の明示化を実現。

■ 超精密高速温度センサ

皮膚に当てるだけで早期のがん診断を可能とする温度センサ(弘前大学、SEMITEC㈱と共同開発)。皮膚がんと健康な皮膚では有効熱伝導率がわずかに異なっていることに着目。SEMITEC独自の2つの薄膜サーミスタ(温度測定センサー)により、従来は難しかった皮膚表面温度の精密かつ高速な計測を実現。

■ 高密度焦点式超音波治療(HIFU:ハイフ)

高密度の超音波によって腫瘍を焼き切って治療する装置。患者の体を切ることなく治療できるため近年高い注目を集めている。

八戸地域高度技術振興センター

令和6年度「研究開発資金助成事業」助成事業者決定!

本事業は八戸地域に事業所を有する企業等の育成のため、「高度技術の開発」あるいは「高度技術を利用することによる製品の開発又は高付加価値化、生産工程の合理化・省力化」を目的とする研究開発を対象に、総事業費のうち、助成対象経費の2分の1であり100万円を限度として助成を行う事業です。8月27日(火)に行われた審査委員会による審査の結果、今年度は2社が助成事業者に決定致しました。

アンデス電気株式会社

所在地：八戸市桔梗野工業団地一丁目3番1号
助成決定額：865,000円(総事業費：10,580,000円)

研究期間

令和6年9月2日～令和7年7月31日

内 容

高活性光触媒材料の開発と空気浄化用部材への応用に向けた研究開発

オトミチ硝子株式会社

所在地：十和田市西十五番町30-13
助成決定額：1,000,000円(総事業費：2,530,000円)

研究期間

令和6年9月1日～令和7年8月31日

内 容

八戸市内企業が保有するリサイクル材料を活用し、環境に優しいサステナブルな断熱パネルの商品化に向けた研究開発

令和6年度「アイピー倶楽部」総会

ヴァンラーレ八戸社長、

「地域に愛されることが、役立つこと、必要とされること」

ヴァンラーレを育てていただいた感謝を語る



講演する下平社長

アイピー倶楽部(会長:株河原木電業 河原木琢也代表取締役)は7月9日(火)、八戸パークホテルにおいて総会を開催。令和5年度事業報告および収支決算報告、令和6年度事業計画案及び収支予算案が承認され、任期満了に伴う役員改選では河原木琢也代表取締役が会長に再任されました。

続いて「地域に必要とされて役に立ち愛されるクラブへ」と題し、株ヴァンラーレ八戸の下平賢吾代表取締役社長による講演が行われました。

ヴァンラーレ八戸のクラブ創設は2006年、八戸市南郷を拠点に東北2部リーグから始まります。2013年にJFL^{※1}に昇格しカテゴリーアップ、2018年、Jリーグ入会を果たしました。「ヴァンラーレ」はイタリア語で「南の郷」を意味する「アウストラレ」と、「起源」を意味する「デリヴァンテ」を組み合わせた造語で「チームの起源は八戸と南郷」という意味を込め、またエンブレムは八戸と南郷の特産物であるイカと、その足を南郷の蕎麦に見立てボールをキャッチした姿がモチーフで、背景は八戸の海・青、南郷の緑を表現しています。

もともと村民体育大会など地域のスポーツ事業において活動していた部活動レベルのチームでしたが、「もしトップチームを目指す子供たちが現れたら」との思いとともに、浦和レッズに次ぐ年間65万人以上の集客を誇るクラブに育て「新潟の奇跡」の先導役を果たしたアルビレックス新潟の中野幸夫社長^{※2}からの「何のためのサッカーマンなんだ? 地域に貢献するため、地域を変えるためではないのか?」との言葉が後押しとなり、Jリーグを目指すことをメディアリリースにより表明しました。一方周囲から「さすがに無理ではないか」といった冷ややかな反応も少なくなく、実際に苦難の連続。恩師に相談すると「失敗したことは恥ずかしいことではない。失敗した後何もしないことが恥ずかしいこと。他の真似をする必要はない、自分たちがどの色で進むか決めなさい」との言葉をいただき、2018年、ついに青森県初のJリーグチーム誕生(J3昇格)を実現——下平社長は「幾多の辛苦を乗り越え、あの瞬間、あの場所で、あの仲間たちと、経験したとのない歓喜に包まれたことは感無量で次なる原動力になった」と振り返りました。その上で、やはり資金力は大事、そして勝たなくてはいけない、しかしただ勝てばいいというものではない、何が重要か——「『地域に愛されることが・地域の役に立つこと・地域から必要とされること』であり、ファンサービスは勿論、サッカー教室を通じた子供たちの育成、出前教室、観光や地域企業コラボ商品を含む地域物産のPR、更には子育て家庭や高齢者施設で暮らすシニアの方々との応援企画、農業支援といったさまざまな活動などを積み重ねてきた。それに連れて企業や団体そして市民の方々の後押しも徐々に拡がり、共創とともに現在のチームに育てていただいた」と感謝を込めて語りました。

参加者からは、地域のため、子供たちの将来のため、その信念を貫き、現在に至るまで牽引してきた忍耐力、決断力、リーダーシップ、そしてヴァンラーレ八戸のチーム力に感銘を受けたという声が多数聞かれました。

ヴァンラーレ公式HP▶
<https://vanraure.net/>



※1: JFL(日本フットボールリーグ)、Jリーグに次ぐアマチュア最高峰のサッカーリーグ ※2: アルビレックス新潟立ち上げに貢献。元Jリーグ専務理事、元日本サッカー協会常務理事

八戸インテリジェントプラザ

令和6年度「八戸市産学官共同研究開発支援事業」支援対象事業決定!

株八戸インテリジェントプラザが八戸市から受託し、八戸市内の企業が技術の高度化および新製品開発、技術開発を目指し、大学・高専・公設試等有する技術を活用して行う共同研究開発に対し、研究開発経費支援する事業です。

事業には「パイロット事業枠」(対象経費の10/10以内の額(上限25万円))、「成果育成枠」(対象経費の1/2以内の額((上限200万円))の2種類の事業枠があり、9月12日(木)に行われた審査委員会による審査の結果、今年度は1件の支援事業が決定しました。

■パイロット事業枠

研究の初期段階であり、今後本格的な研究開発を行うにあたっての探索的な研究開発や、実用域までは達しないが実用化が見極められるような研究開発、または小額の研究開発を対象。

■成果育成枠

これまで実施してきた研究開発を実用化に向けてさらに加速するための研究開発、または実用化を視野に入れた研究開発を対象。

成果育成枠	旭光通信システム株式会社	所在地: 八戸市北インター工業団地1丁目3-35 交付決定額: 税抜1,775,000円(対象経費: 税抜3,550,000円)
研究期間	令和6年10月1日 ~ 令和7年2月28日	
内 容	インターホンにおいて、使用時の問題点を解消するための新たな技術を開発し、 新型インターホンシステムに組み込む研究開発	
共同研究者	八戸工業大学 工学部工学科 准教授 越田 俊介	

Pick-up Park

ピックアップパーク

【よりぬき広場】

Report by
Hachinohe IP

Report

国際社会での地域主義・地域統合と国内地方部での地域活性化 — 東南アジアの事例から —

八戸学院大学 地域経営学部 准教授 横田 将志

〒031-8588 青森県八戸市美保野13-98
TEL: 0178-25-2711

日本に暮らす私たちは、ある面において、世界で最も遅れた場所で生活しているということができます。国際社会を見渡すと、20世紀の後半から各地で、地域主義・地域統合が進められてきました。地域主義とは、1か国では達することが難しい国益の実現や課題の解決に向けて、周辺の国同士で協調して意思決定を行い、政策を実施していくべきだとする考えです。地域統合には、このような考え方に基づいて、ある特定の地域に位置する複数の国家が実際に協力していく動きが含まれます。

地球上で2024年現在、地域主義・地域統合が最も進んでいる場所は、ヨーロッパです。ヨーロッパ大陸に位置する27か国は、欧州連合(EU)を組織し、貿易をはじめとする幅広い分野で共通の政策を実施しています。日本や中国、韓国が位置する北東アジアは、このような動きが世界で最も進んでいない状況にあります。その背景には、日中間や日韓間に横たわる歴史認識問題や領土問題が存在すると指摘されてきました。

国際関係論を専門とする私は現在、東南アジアにおける地域主義・地域統合を研究しています。東南アジアは、地域主義・地域統合の動きがヨーロッパに次いで進んでいる場所です。東南アジアの10か国は、東南アジア諸国連合(ASEAN)を組織し、経済分野を中心とした協力を行っています。その一方で、北東アジア諸国の間で見られるものよりも複雑な歴史認識問題と領土問題を抱えたままです。この点を踏まえると、東南アジアは、北東アジアにおける地域主義・地域統合の推進に向けた方策を検討するに当たって、ヨーロッパよりも適した事例であると理解できます。

東南アジア諸国は、1990年代以降、経済分野で地域主義・地域統合を進めるために、物流インフラの整備に取り組んできました。その一環として、2024年8月までに4本の「タイ＝ラオス友好橋」が開通し、3本はタイ東北部の街と、メコン河を挟んだ対岸にあるラオス南部の街とを結んでいます(図1)。

タイ東北部は、タイのなかでも発展が遅れていると指摘されることの多い地方です。稲作を中心とした農業を主要産業としていますが、タイの他の地方と比較して、気候条件が厳しく、凶作にもたびたび見舞われてきました。首都であるバンコクから遠く、交通が不便な場所でもあります。若者の都市部への流失を伴う人口減少にも直面し、地域活性化が喫緊の課題となっています。

タイ東北部のうち、友好橋が建設された街とその周辺では、経済発展が続いています。貿易関連の施設の整備や企業の進出、ラオスからの買い物客を見込んだ大型商業施設の新設などによって、新たな雇用が創出され、人口と訪問者数の増加、所得水準の向上などが見られます(図2、図3)。

タイ＝ラオス友好橋は、東南アジアにおける地域主義・地域統合の推進という文脈のなかで計画・建設されたものです。そのため、友好橋の整備によってもたらされたタイ東北部での地域活性化は、国際社会における地域主義・地域統合の動きから生まれた副次的効果だと理解することが妥当だといえます。

以上の点を踏まえると、北東アジアにおける地域主義・地域統合の進展が青森県を含めた東北地方の地域活性化に資するものだと考えることができます。東南アジアの事例からは、地域主義・地域統合の推進がそこに参加する国の地方部における地域活性化にも寄与することが見えてきました。同時に、歴史認識問題や領土問題などを抱えた国同士であっても、協力しあうことが可能であることもわかります。



(出典)筆者撮影、2023年8月

図1 第2タイ＝ラオス友好橋



(出典)筆者撮影、2023年8月

図2 第2友好橋近くにある物流ターミナル



(出典)筆者撮影、2023年8月

図3 第2友好橋近くの大型ショッピングセンター

創造企業風土スケッチ

No.099

株式会社ミナミ

異業種から新事業を切り拓く

～顧客が真に求めるモノを徹底追究―「けろシリーズ」完成～

八戸で17年間事業を続けてこられた恩返し

八戸市と南部町でプリント基板実装、産業用機器組立等を行う(株)ミナミは、設計から組立・検査まで一貫対応、また試作・小ロット・量産も最短納期で応えるなど高い評価を得ている。松下武志専務取締役は「誘致企業として八戸で17年間事業を続けてこられたのはお客様と地域のおかげ、その恩返しとして何か貢献したい」という思いとともに、自社の技術やノウハウを活かせる分野は何かを考え、2022年、八戸工場において福祉施設向け介護・支援用品の開発・製造・販売事業への参入を決断した。



映してけろ〈見守りシステム〉

夜間・居室における要介護者のベッド上での「起き上がり・はみ出し」を検知し職員携帯のスマートフォンなどに通知

★検知対象・範囲の限定により他社にはない高検知率が強み。プライバシーに配慮した特殊画像配信、検知前後動画のカメラへの保存・取出しも可能。特別なアプリ不要で最小限の見守りを最小限の費用で実現。オプションでナースコール、双方向会話もできる。



知らせてけろ〈見守りシステム〉

施設利用者の起き上がりやドアの開閉など必要な場面において、各センサに特定小電力トランシーバを接続するだけで、感知情報をスタッフ携帯のトランシーバへ音声一斉配信

★月々の使用料金、通信料金なし。トランシーバとの組合せは盲点といえるアイデアで無線機メーカーからコラボを兼ねた問合せも。



押してけろ〈介護記録・電子カルテ〉

数字を「押す」、選んで「押す」だけの介護記録システム。クラウド上への保存可能

★浴室、トイレなど記録する場所へ設置することでその場での記録が可能。IT機器が苦手な方や外国人スタッフにも継続使用が期待できる手軽さ。「ケア・コワーカー」との連携も可能。



ちょよしてけろ〈レクリエーションシステム〉

2個のコントローラーを操作するレトロゲーム（ブロック崩し・エアホッケー・洞窟ゲームなど）

★このゲームは左右の手で異なる動きを要求する内容。対戦プレイやプレイヤーのスキルに合わせて難易度を調整でき、さらにゲームオーバーにならないエンドレスモードも可能。余暇活動として高齢者や手先が不自由な方も楽しめる。

※「けろ」は…東北地方の一部で「～してくれないか、して欲しい」という意味で使われる方言

自分たちができるコトは何か——コタエは

さまざまな介護関連商品やシステムが出回っている一方、使う側の現場に目を向けると「機能は充実しているが不要な機能も少なくない」「高価である」「自分の施設にはいまいち適合しない、使いづらい、使い慣れない」「運用が容易ではない」といった声も少なくない。ミナミでは三八地域の高齢者介護・障害者支援事業者に対してお困りごとに関するアンケートをお願いし、約80事業者から回答を得た。さらに「本当に必要なモノ、困っているコトに応えるのは現場を知ること。ただし知識がなければ理解は深まらず、かえって邪魔になる」と考え、必要な知識を習得した上で協力事業者において仕事を体験させていただいた。今では介護関連の資格を有する社員が6名在籍するとともに業務のリスクリングにも繋がっている。こうして「現場が真に求める・最低限の機能・安価・誰もが使いやすくコンパクト」を兼ね備えた商品を完成させた。

まず多くの事業者が課題として挙げた記録業務について「エビデンス記録アプリ（ケア・コワーカー）」を2022年にリリース。利用者毎のバイタルや食事、活動などの記録は画面がわかりやすく操作ストレスを軽減、蓄積した記録もチャート化できるなど視覚的なのが特徴。2024年には「けろシリーズ」を発表した。（左表参照）

これならウチでも欲しい! 導入したい!

ミナミでは県内はもとより仙台圏や首都圏の展示会・商談会にも積極的に出展。八戸以外でも関心の高さが窺え、導入希望も増えているという。八戸市の障害者支援施設である(福)豊寿会の池田浩章統括本部長も「複数の事業所で『ケア・コワーカー』を利用し、各事業所の機能が異なるので特徴に応じてカスタマイズしていただき重宝している。『けろシリーズ』も導入予定。多くの他社システムを調査・検証してきた中で必要な機能に特化したモノは見当たらず費用対効果も非常に魅力的。ICT化、ロボット導入は喫緊の課題であり、ミナミさんに寄り添っていただけることは大変心強い」と高評価。松下専務は「地元であることが強み。保守対応も素早く駆けられる」と事業者への後押しに改めて意欲を示した。

企業概要

代表 表：代表取締役 熊谷 彰

所在地：【本 社】長野県飯田市松尾城4325

【八戸工場】八戸市市川町桔梗野上19-82

【福祉工場】南部町大字法師岡字勘右衛門山1-1、他中国

T E L：0178-38-1565（八戸工場）

F A X：0178-38-1566（八戸工場）

設 立：1965年4月

資 本 金：1,000万円

従業員数：85名

■株式会社ミナミ

<https://minami-web.com/>

■ケア・ワーク事業部

<https://care-work.info/>



Message: 是非、御用聞きとして使ってください。
お困りごとがあれば是非ご用命ください!

新事業・新商品はどこから生み出されるのか、その先にある展望とは

松下専務は過去に「これはヒットするかもしれない」という発想から行った事業で失敗したことがあるという。その教訓もあり今回は徹底的な現場重視を貫いた。その結果、業務の実際、入所者の動きを直接体験・観察することによってヒアリングだけでは得られない気づきやひらめきが浮かび上がり、やがて商品のアピールポイントとして顧客から支持を得るに至った。松下専務は「今後は年間1アイテムを開発・製造し、事業部として独り立ちさせたいと考える。そして青森県が社会福祉の生産性向上を目的とした先端機器や用品の開発拠点集積基地になれば良い」と将来を見据える。その熱意からは高齢者人口の加速、省力化が不可欠な未来において、青森県の新たな産業創出に寄与することが期待される。

第1回経営ビジネスセミナー（アイピー倶楽部「経済講演会」併催） 経産省DXセレクション2024※グランプリ企業から学ぶDX

振興センターは9月13日(金)、浜松倉庫(株)(静岡県浜松市)の中山彰人代表取締役社長をお招きし、第1回経営ビジネスセミナーを開催。幅広い業種の企業、学官金関係者ら約40名が参加しました。

浜松倉庫(株)は1907年(明治40年)設立の老舗総合物流会社。「浜松地域に事業を通じて賑わいをもたらす、当地域に貢献する」ことを存在意義とし、約20年前から様々な取組みに着手します。まずは少子化を見据え、現場女性従業員の採用を開始し若年層の人材確保に成功。現場女性採用率は54.5%にのぼり、リフトオペレーターの1/3を女性が占めるまでになりました。2015年からは生産性向上をめざし、若手幹部社員中心に徹底的な業務見直しを開始。情報共有の仕組み構築、若手従業員に考える癖をつけさせるための教育など下地作りから始め、3年の中期プロジェクトにより業務のスリム化、営業力強化、品質向上を図ります。お客様(荷主)を巻き込み、データ提供の手段を複数用意したことにより、FAXレス、ペーパーレスを実現。データ入力業務が激減し、事務職の生産性向上につながりテレワークも可能に。またデータを分析し提示することで、受け身型から提案型へとビジネスモデルも変化しました。以上より10人工分の余力を創出し、新プロジェクトの初期スタッフへの活用につながりました。

今後は環境配慮型GX倉庫を新設し、ロボット協働の医療機器物流を開始するとのこと。中山社長は「DXの核心はX(transformation=変革)。目的は事業存続であり、少しずつのXが大きな成果を生む。常に時代の先を見据え『変革』しながら持続可能な企業であり続けるよう取り組んでいく」と述べられました。参加者からは「改革の意識づけの重要性を認識した」「コンサルを入れずに社員に考えさせて答えを出すという自発性を促す方法は大変感動した」「デジタルツールありきではなく、変革の意思と中長期計画の実行・達成に合わせたツールの活用、継続した改善が重要であると感じた」「トップダウンではなく社員が自ら考え行動する組織作りを進めたい」などの声が寄せられました。

※DXで成果を残している中堅・中小企業のモデルケースとなる優良事例を選定するもの。



講演する中山社長

贈るよろこび—贈られるうれしさ

美味直送

ふるさとの新鮮な美味しいものをぎゅーっと詰め込んで
まごころもいっぱい添えてお届けいたします！

お申し込み
お問い合わせ

通 八戸通運株式会社

〒031-0072 [本社] 青森県八戸市城下一丁目1-9 [URL] https://www.hattsu.co.jp/san_hp/
TEL.0178-22-0202 FAX.0178-44-0128

アクセスはこちら！

HACHINOHE
PARKHOTEL

上質で、快適なひとときを、あなたにも

TEL.0178-43-1111 FAX.0178-43-0264

公式HP

ブライダル、各種ご会合、
ご宿泊承ります。

直営店のご案内
樹林(さくら野・八戸店6F)

ふれあいを大切にする
日本ホテル協会会員

八戸プラザホテル

八戸市旭町1丁目6-6 TEL.0178-44-3121

<http://www.plazahotel.jp>

令和六年度
常設展

愉しむ。
平安を
四季と、

入場無料

●開館時間
●月祝日は開館
●水曜・木曜・金曜・土曜・日曜・祭日は休館

039-2245
八戸市北インター工業団地1-5-2
お問合せは、Tel.0178-20-1335まで

八戸美術館

お申し込み
お問い合わせ

株式会社八戸インテリジェントプラザ
TEL 0178-21-2111 FAX 0178-21-2119
<https://www.hachinohe-ip.co.jp/>

公益財団法人八戸地域高度技術振興センター
TEL 0178-21-2131 FAX 0178-21-2119
<https://www.hachinohe-ip.co.jp/index2.htm>

